



東校だより

6月号

令和3年5月31日
横浜市立東小学校
校長 保科 桂子

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/azuma/>

それでも楽しむ

副校長 高山 和宣

コロナウイルスの終息がなかなか見えません。学校としても児童の安全、安心を最優先と考えていますので、学習活動等では、制約があったりできないことがあったりもします。

先日、保健室の前に養護教諭の渡部が下の写真のような「た ま て ば こ」の表示をして、児童にコロナ禍での対応を呼びかけました。

た：体温チェック
ま：マスクをつけよう
て：手を洗おう
ば：はなれよう（場を考えよう）
こ：言葉に気をつけよう（心をつなごう）



そんな中ではありますが、5月12日(水)に全校たてわりピクニックに出かけました。当日はPTAボランティア等、皆様のお力添えをたくさんいただきました。ご協力くださいました皆様、本当にありがとうございました。

感染症拡大防止の観点から様々な制約のある中でのピクニックでしたが、リーダーとなった6年生が、めあてに向かって楽しくなるように、一人ひとりが考え、そして自分の役割を果たし、協力し合って充実した活動を作り上げました。

リーダー児童が、それぞれの活動について、下学年の児童にしっかりと説明や運営ができた「リーダーシップ」もとてもすてきでしたが、私はもう一つすてきだなと思ったことがあります。

それは、リーダーの話をよく聞き、協力的な態度で参加している他の児童の行動です。

仕方なく協力しているのではなく、積極的に楽しむこと、ひたむきに取り組むことでリーダーを支えようとする「メンバーシップ」が、なんとも清々しく感じられました。前に出て注目されている時、しっかりやろうとするのはよく見る光景です。しかし、その他大勢の立場になった時の参加の仕方、これはなかなか難しいものです。

健康・安全のためとはいえ「〇〇をしてはいけません。」という否定のめあては子どもたちにとってはとても厳しいものです。そんな中でも自分たちで楽しみを見つけ、主体的に「ひとものこと」に積極的にかかわっていく姿に勇氣さえもらいました。

日頃の学習においては、本校重点研究会推進委員長の滝山を核として「わかる・できる」楽しさを感じられる子を目指して、日々授業改善に取り組んではおりますが、やはり学校の活動を楽しくつくり出すのは子どもたちなんだと改めて感じました。